

令和6年 決算特別委員会〔総合政策部所管〕開催状況

開催年月日 令和6年11月12日(火)

質問者 日本共産党 丸山 はるみ 委員

答弁者 総合政策部長、計画局長、計画推進課長

質問要旨	答弁要旨
<p>二 SDGs について</p> <p>(一) 未来都市計画に盛り込まれていないゴールの取扱について</p> <p>道の「SDGs 未来都市計画」というのがありまして、2030年のあるべき姿として SDGs の 17 のゴールとターゲット番号が記載されているが、「ジェンダー平等の実現」「人や国の不平等をなくす」「平和と公正をすべての人に」「パートナーシップで目標を達成しよう」の4つのゴールがすっぱり抜け落ちていると、あるべき姿の実現に向けた優先的なゴールにこれらを盛り込まなかった理由をそれぞれ伺います。</p> <p>(二) 未来都市計画における SDGs ゴールの設定について</p> <p>第2期「SDGs 未来都市計画」に明記されている指標の中に、観光消費額、道外からの観光入込客数など、経済成長の観点から設けられたものが少なくありません。</p> <p>2015年国連総会で採択した SDGs 前文の5つの決意の中に「繁栄を実現する」というものがあります。「わたしたちは、全ての人が豊かな満たされた生活を送ることが出来るようにし、自然と調和した形で経済や社会、技術を進歩させていくことを決意します」とあります。</p> <p>外国人1人当たりの観光消費額や道外からの観光入込客数を設定することが、この決意と一致しているとは考えにくいと考えています。</p> <p>道は、これらの目標が SDGs の言う持続可能な社会の実現とどう整合性を検討した上で、これらの目標をゴールとして設定したのでしょうか。</p> <p>(再質)</p> <p>「持続可能な観光業の促進」は単純な消費のみではなく、持続可能がセットになってこそその経済指標ではないのでしょうか。資源を使い切ることなく、成長とどう調和を図っていくかという視点こそ SDGs のめざすところであって、観光消費額の増加は単純消費を追求した結果であり、持続可能性がどこに含まれているのか、見解をお示ください。</p> <p>(三) 貧困に関する道の指標について</p> <p>貧困をなくすというゴールの KPI 指標が「北海道福祉人材センターの支援による介護職の就業者数」のみとなっております。道自身が策定した「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組」の中に、SDGs の一丁目一番地に位置付けられている貧困をなくすゴールのための具体的施策がたった一つしか設けられていないこと自体、問題ではないかと思えます。</p> <p>道の子どもの貧困対策推進計画との整合性も取れていないものとなっているんじゃないかと。貧困をなくす目標が「北海道福祉人材センターの支援による介護職の就業者</p>	<p>(計画推進課長)</p> <p>北海道 SDGs 未来都市計画についてであります。国においては、SDGs の理念に沿って、地域課題の解決や地域の資源を活かした取組などを提案する自治体を SDGs 未来都市として選定し、選定された自治体は、提案内容の実現に向けた未来都市計画を策定することとされております。</p> <p>2018年に未来都市に認定された道では、第1期の未来都市計画を策定するに当たり本道の地域特性や、他の自治体と比較しての優位性、今後取り組む課題などを整理した上で、「安全・安心な社会の形成」や「環境・エネルギー」、「持続可能な経済成長」など5つの優先課題を掲げて対応する取組や指標を設定したところでございます。</p> <p>(計画推進課長)</p> <p>経済に関する指標についてでございますが、未来都市計画においては、経済の観点における優先課題として、「北海道の価値と強みを活かした持続可能な経済成長」を掲げ、持続可能な農林水産業の展開のほか観光分野においては、観光客受入体制の整備など北海道観光の充実を図り、地域における所得と雇用を創出することとしております。</p> <p>これに対応する SDGs のターゲットである「持続可能な観光業の促進」などの実現に向けた指標として、観光消費額や道外からの観光入込客数を設定しているところでございます。</p> <p>(計画推進課長)</p> <p>指標の設定についてであります。未来都市計画においては、SDGs のターゲットである「持続可能な観光業の促進」などの実現に向けた指標として、観光消費額や道外からの観光入込客数を設定した上で、観光客の受入体制の整備など、北海道観光の充実を図り、地域における所得と雇用を創出し、持続可能な観光地づくりなどを推進することとしております。</p> <p>(計画推進課長)</p> <p>指標の関連性についてであります。道では、未来都市計画に掲げる5つの優先課題のうち「あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成」に向け SDGs のターゲットである「貧困層・脆弱層の人々の保護」や「基礎的サービスへのアクセス」に関する指標を設定したところでございます。</p> <p>このうち、優先課題に対応する指標として設定した「北海道福祉人材センターの支援による介護職の就業者数」につきましては、質の高い福祉サービスの提供に加え、多様な人材の活用を促進するための良質で安定的な雇用の受</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>数」とどのように結びつくのか、具体的に説明をお願いします。</p> <p>(再質) 未来都市計画策定前の 2015 年に北海道は「北海道子ども貧困対策推進計画」を策定し、具体的目標値も設定しています。しかし、未来都市計画には一切反映されていません。なぜ介護人材だけが特筆され、この実現をもって「貧困をなくす」と定義できるのか、見解をお示しください。</p> <p>(四) 目標を下回った指標に対する対策について 道では 2021～2023 年までの計画期間の到達状況を進捗状況報告シートにまとめています。道自身が設定した目標を下回っているのは主にどのような項目でしょうか。 また、下回った指標に対して、具体的な対策を講じてきたのか、お答えください。</p> <p>(五) SDGs ゴールと未来都市計画の整合性について SDGs は 17 の目標を「人間」「繁栄」「地球」「平和」「パートナーシップ」の 5 つに大別しています。しかし道の計画は、SDGs の目標のカテゴリーに即した施策展開とはなっておりませんので、道の総合計画をもとに、関連すると思われる SDGs ゴールを当てはめたものになっています。故に、ゴールの目標設定に非常にアンバランスのある計画となっている。 SDGs 未来都市計画の議論を行う際に、SDGs の 17 の目標の 5 つのカテゴリーを踏まえた計画とする検討をされなかったのでしょうか。お答えください。</p> <p>(六) 次期計画策定にあたっての SDGs の目的を踏まえた検証について 次期「北海道 SDGs 未来都市計画」の策定に向けて現在作業が進められていると承知しております。SDGs の S は「サステナブル＝持続可能」という意味がありますが、専門家からは「今の世代のニーズを満たすことだけを優先して、将来世代の可能性を奪ってはならない」という指摘がされているところです。SDGs の原点はここにあると思いますが、それを体現した性格だったかと言えば、その真意が伝わりにくいものだったことは否めないと考えております。 次期計画策定にあたり、SDGs の原点に立ち返り、その目的が達成されたか否かの検証はされるのでしょうか。</p>	<p>け皿づくりや就業支援など就業環境の整備・改善につなげていくための指標としたところでございます。</p> <p>(計画推進課長) 指標の関連性についてではありますが、道では、5 つの優先課題の 1 つとして、「あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成」を掲げており、対応する SDGs のターゲットである「貧困層・脆弱層の人々の保護」について、主に介護などのサービスが必要な方々に対し、専門人材を確保し、質の高い福祉サービスの提供などを行うため、「北海道福祉人材センターの支援による介護職の就業者数」を指標として設定したところでございます。</p> <p>(計画推進課長) 指標の進捗についてではありますが、国に提出した 2022 年までの指標の進捗状況におきましては、進捗に大きな遅れが見られた指標として道内空港の国際線利用者数や道内容 1 人あたりの観光消費額があり、いずれも、新型コロナウイルス感染症が大きな影響を与えたものと考えております。 このため、道では、国際線について、外国人の新規入国制限が解除された後、インバウンド・アウトバウンド双方の需要創出を図るとともに、国際航空ネットワークの拡充に向けた取組等を関係機関と連携して実施しているほか、観光消費については、観光の高付加価値化に向けた取組を重点的に展開し、観光消費額の増加を着実に進めているところでございます。</p> <p>(計画推進課長) 計画策定の考え方についてではありますが、国においては、SDGs の達成に向け、地域課題の解決や地域資源を活かした取組を進める自治体を SDGs 未来都市として選定しておりますが、その提案にあたっては 2030 アジェンダで示されました「人間」や「地球」、「繁栄」といった 5 つの考え方ごとに整理することを求められているものではないかと存じます。 このため、道では、「安全・安心な社会の形成」や「環境・エネルギー」などの国に認められた 5 つの優先課題に基づき未来都市計画を策定したところでございます。</p> <p>(計画推進課長) 検証についてではありますが、道では、SDGs 未来都市に認定された自治体として、2030 年の目標達成に向け計画の進捗について、毎年、国に報告しており、国が設置している「自治体 SDGs 推進評価・調査検討会」におきまして全国の未来都市とともに内容の評価を受けているところでございます。 直近の評価結果では、指標の遅れについての指摘ですとか効果的な施策の推進について助言などがあり、道としても、関係各部と共有しながら、目標の達成に向け改善に努めているところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(七) 次期計画策定に向けた取り組みについて</p> <p>SDGs の原点から現行計画を客観的に見直し、真の目的に近づけていく計画にしていく必要がある。有識者からの意見聴取は既に終えたとのことですが、当事者である道民の声を取り入れる姿勢が見えません。ワークショップ等の手法も活用して、道の計画を理解してもらった上で、SDGs が掲げる未来社会に道民がどのように寄与していくのか共に考える機会を創設する必要があると考えますが、いかがでしょうか。</p> <p>これまでの計画の問題点をどう総括し、次期計画策定に向けてどうつなげていくのか、お答えください。</p> <p>(再質)</p> <p>SDGs 本来の目的の達成に向けた責務は道に課されていると思います。計画自体が大きく変更できない中でも、SDGs の原点から見て検証が必要であり、率直な検証と道としての施策に活かしていくことを求めますが、部長の見解を伺います。</p>	<p>(計画局長)</p> <p>次期計画についてでございますが、道ではこれまで2期にわたり未来都市計画を策定し、推進してきたところですが、今年度をもって現計画が終了いたしますことから、国から示された考え方やスケジュール等を踏まえ、次期計画を策定することとし、本年9月に骨子案を道議会に報告したところでございます。</p> <p>策定に当たりましては、有識者からの意見聴取を行いましたほか、今後におきましては、市町村への意見照会や広く道民の皆様を対象としたパブリックコメントに加えまして、道が運営する北海道 SDGs 推進ネットワークの会員である企業や団体等への意見聴取も行うなど道民の皆様の声を取り入れながら策定してまいります。</p> <p>(総合政策部長)</p> <p>次期計画についてでございますが、未来都市計画の策定に当たっては、広く道民の皆様の声を取り入れることが重要との観点から有識者からの意見聴取を行いましたほか、今後、市町村、企業・団体への意見照会や道民の皆様を対象としたパブリックコメントに加え、新たに小中学生や高校生といった本道の将来を担う若い世代を対象としたパブリックコメントを実施することとしております。</p> <p>道としては、今後ともより多くの方々が SDGs への関心を持ち、計画へご意見をいただけるよう、道議会でのご議論はもとより、道のホームページをはじめ様々な媒体を活用して周知を図るなど丁寧な道民意向の把握に努め、必要な対応を検討してまいります。</p>